

2020年度 WAFCA 車いすクライアントの生活の質(QOL)調査報告書  
(タイ、インドネシアにおける車いすサービス提供事業)

アジア車いす交流センター(WAFCA)  
アジア車いす交流センター・タイランド(WAFCAT)  
アジア車いす交流センター・インドネシア(WAFCAI)

## 1. 調査の背景

WAFCA、WAFCAT、WAFCAIは、障がい児とその家族の生活の質(QOL)レベル、すなわち個人が健康的かつ快適にライフイベントに参加し、楽しむことができる程度の向上を目指し、共通のビジョンとミッションの元に活動を行っている。

### WAFCA グループビジョン 2030

アジアの障がい児一人ひとりに寄り添い、自立へ導く実効性のある環境づくりに取り組む

### ミッション

- ・ 一人ひとりの障がいや成長に応じた車いす、補助装具の提供
- ・ 障がい児の自宅、通学校、コミュニティのバリアフリー化促進
- ・ 障がい児、家族、教師、コミュニティへの能力向上研修の開催
- ・ 障がい児が社会参画できるまで継続する奨学金の提供

上記の共通ビジョン、ミッションに対する社会的インパクトを測るため、WAFCA、WAFCAT、WAFCAIは2020年度の車いすサービス提供事業の被受益者(車いすクライアント)を対象にアンケート調査を実施した。ただし、QOLレベルの変化を測るためには、同じ対象グループに対して来年度以降も継続的な調査が必要である。

## 2. データ収集(2020年4月～2021年3月)

- ・ WAFCAはWHOQOL-100に基づき11項目40問のアンケート調査票を作成した。

- |              |         |         |
|--------------|---------|---------|
| 1) 痛み管理      | 2) 自己認識 | 3) 日常活動 |
| 4) 医療/社会サービス | 5) 環境   | 6) お金   |
| 7) 移動        | 8) 人間関係 | 9) 余暇   |
| 10) 情報/教育    | 11) 仕事  |         |

- ・ WAFCAT、WAFCAIは車いすクライアントに対面もしくはオンラインアプリ(Google Form)を利用してアンケート調査を実施し、WAFCAへ結果を報告した。

## 3. 調査対象人数(車いすクライアント)

	調査対象数	回答数	回答率
タイ	102人	71人	70%
インドネシア	280人	100人	36%

## ◆ 回答者の障がい程度別内訳

	軽度	中度	重度
タイ (71人中)	22人	26人	23人
インドネシア (100人中)	30人	45人	25人
割合 (%)	30%	42%	28%

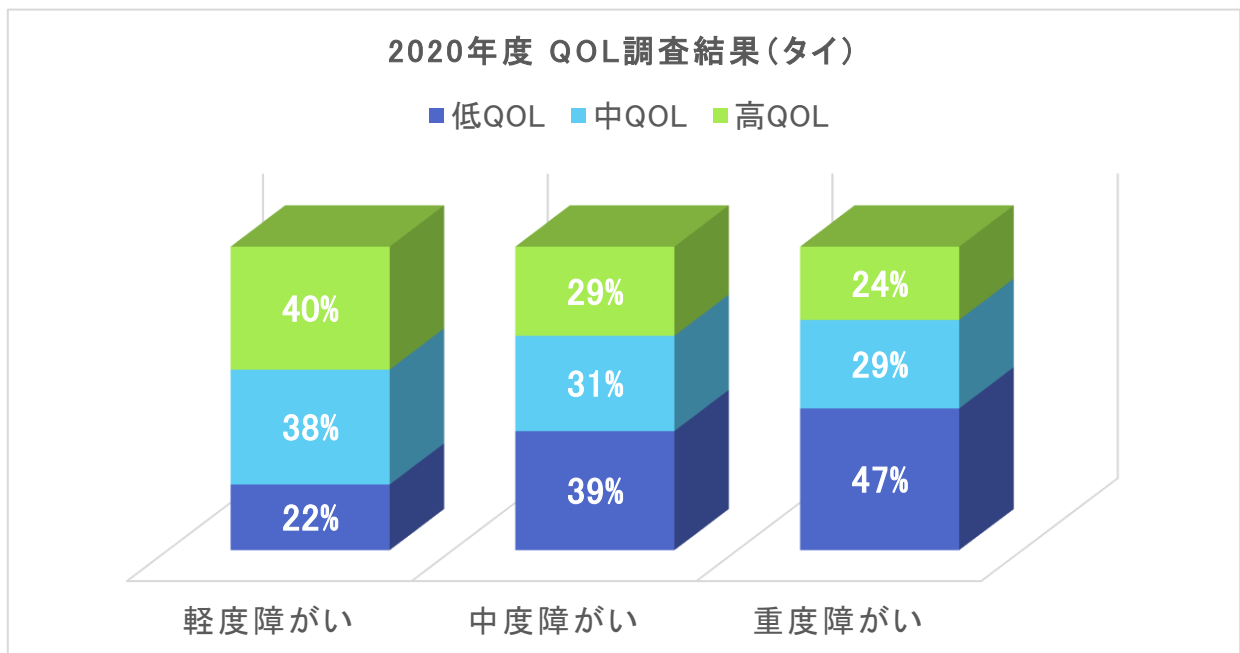
## ◆ 回答者の内訳(人数)

	親	祖父母	叔父叔母	兄弟姉妹	教師	その他
タイ	41人	25人	2人	0人	2人	0人
インドネシア	74人	2人	0人	2人	0人	22人
合計	115人	27人	2人	2人	2人	22人

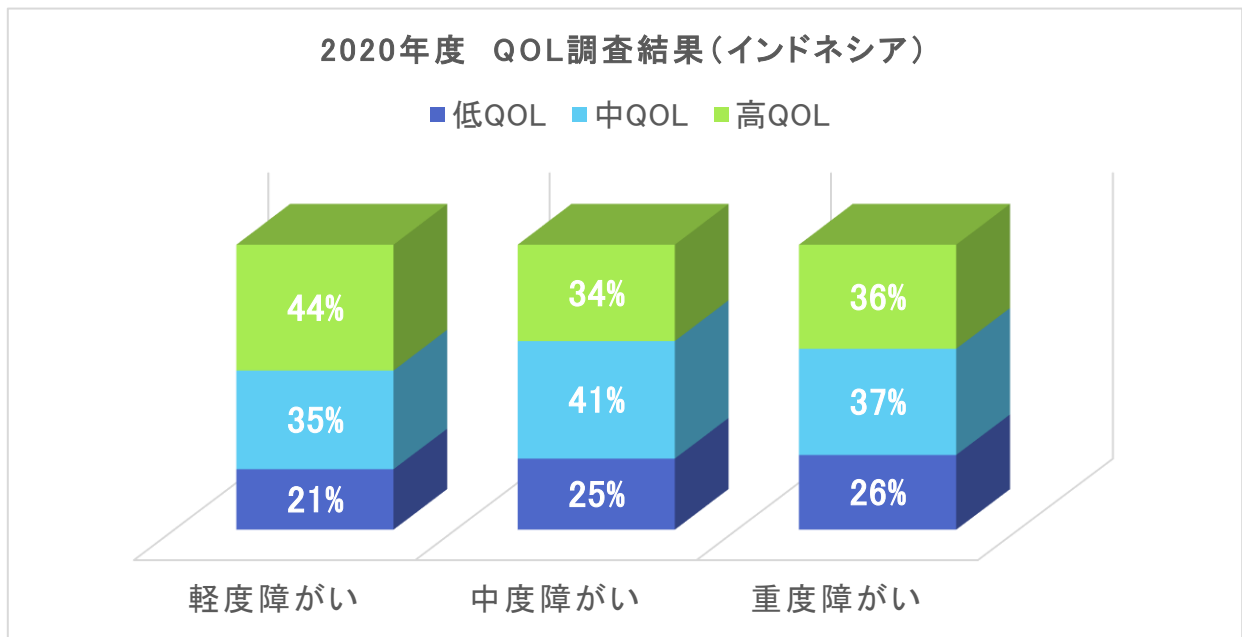
## 4. 結果

## 1) 全体 QOL レベル

## 1-1) タイ



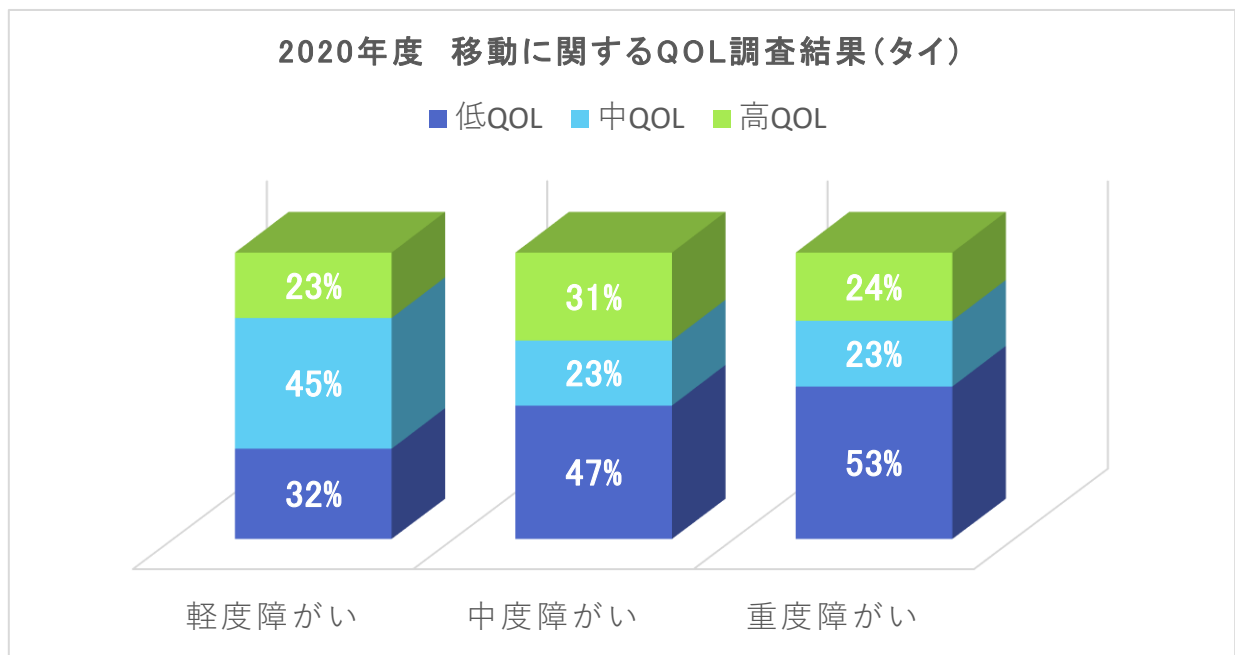
## 1-2) インドネシア



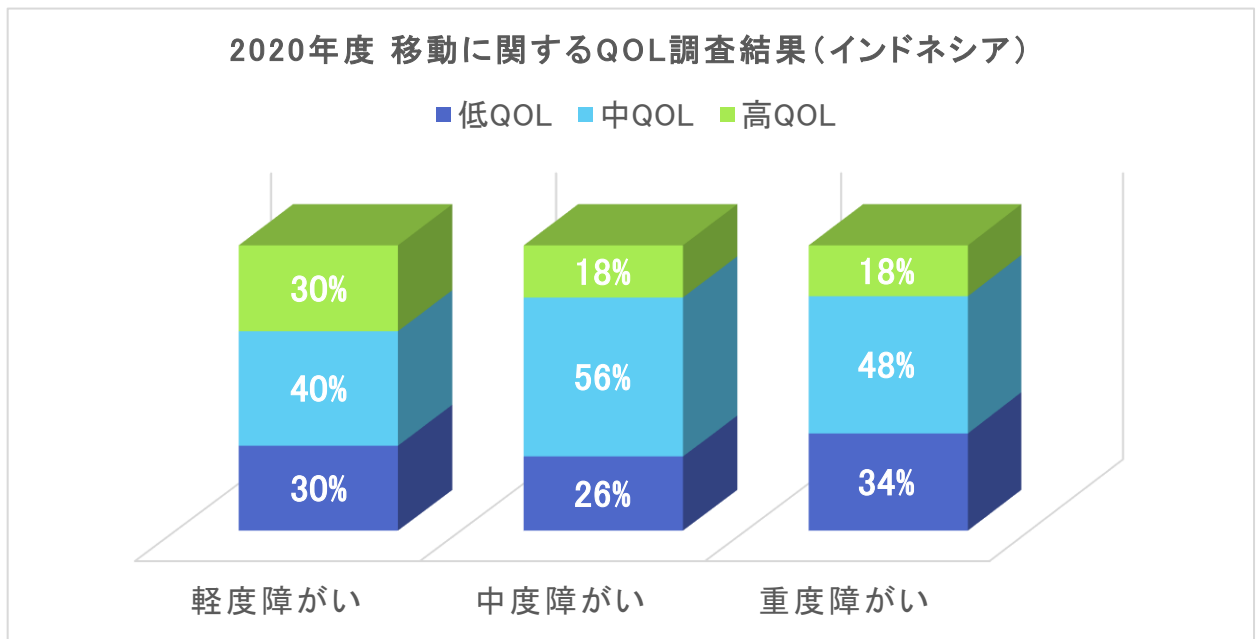
調査結果によると、「QOL レベルが高い、または非常に高い」と回答した重度障がい児の割合がタイ 24%、インドネシア 36%であったのに対し、軽度障がい児ではタイ 40%、インドネシア 44%と高くなる傾向があった。とくに、タイの重度障がい児のおよそ半数が、「QOL レベルが低い、または非常に低い」と回答しており、改善に取り組むべき課題である。

## 2) 移動に関する QOL レベル

## 2-1) タイ



## 2-2) インドネシア



移動および交通手段に関するQOLレベルに注目してみると、「QOLレベルが高い、または非常に高い」と回答した割合が、タイで40%から23%へ、インドネシアでは44%から30%へ減少している。このことから、障がいの程度に関わらず移動や交通手段の問題はQOLレベルを下げる主要な要因であり、引き続き取り組むべき課題であると考えられる。

以上